

事例 2 6 適正量引抜きによる水質改善事例

1. 基本情報および一年間の測定結果

処理方式	構造例示型 嫌気ろ床接触ばっ気	作業予定月	
メーカー／型式	(株)ハマネツ／KGN3型	保守点検	2・6・10月
人槽／使用人員	8人槽／2人使用	清掃	8月
日平均汚水量	0.87m ³ /日	法定検査	4月

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室(cm)		1次処理2室(cm)		沈殿槽(cm)		
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	
清掃	平成25年8月(全量)	31	/	7.4	18	5	20	/	20	/	/
保守	<u>平成25年10月29日</u>	50	5.6	7.3	<u>22</u>	2	7	0	<u>0</u>	0	0
保守	平成26年2月24日	<u>12</u>	4.8	7.2	<u>11</u>	2	15	0	15	0	0
法定	平成26年4月18日	<u>18</u>	1.5	7.4	17	2	30	0	20	0	0
保守	平成26年6月24日	50	5.8	7.6	12	3	20	0	25	0	0
清掃	平成26年8月(適正量)	50	3.4	7.2	25	10	15	0	20	0	0

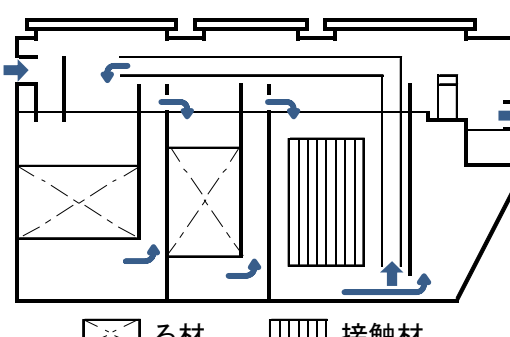
① 適正量引抜き後の測定結果

保守	<u>平成26年10月16日</u>	50	5.8	7.3	<u>36</u>	1	3	0	<u>18</u>	0	0
保守	平成27年2月2日	<u>37</u>	4.4	7.2	<u>21</u>	3	10	0	12	0	0



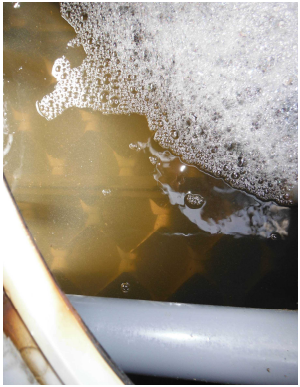
② 各室の有効容量と引抜き結果

	有効容量(m ³)	引抜き量(m ³)	搬出量(m ³)	1室へ移送した水量(m ³)
1次処理 1室	1.569	全量	全量	/
1次処理 2室	1.150			
2次処理	1.624	全量	0.759	1.408 1室の張り水に使用
沈殿槽	0.543			
消毒槽	0.022	全量	全量	/
合計	4.908	4.908	<u>3.500</u>	<u>1.408</u>
使用車両	バキューム車2台		バキューム車1台は移送水専用	


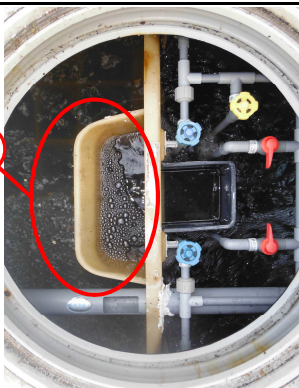
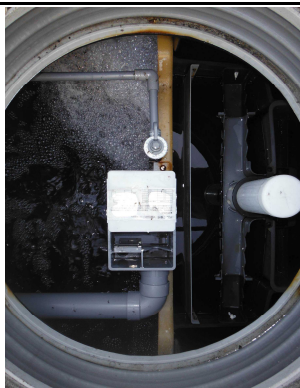
2. 浄化槽の概要図と清掃時の設定状況

概要図		清掃時の設定状況		
		清掃作業 前	清掃作業 後	
		空気逃がしバルブ	1/2回転開	1/2回転開 片ばっ気に変更
		汚泥移送	停止	停止
浄化槽の特徴				
1次処理1室・2室・2次処理：すべて板状板状は汚泥の捕捉性が低く閉塞しにくい				

3. 清掃時の槽内状況(平成26年8月7日)

	1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理	
流入				放流
	1室流出水透視度 6度 スカム厚 10cm 堆積汚泥厚 15cm	2室流出水透視度 25度 スカム厚 1cm未満 堆積汚泥厚 20cm	槽内水透視度 29度 生物膜未生成 薄く白濁している	

4. 清掃2か月後、保守点検時の槽内状況(平成26年10月16日)

	1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理/沈殿槽	
流入				放流
	1室流出水透視度 14度 スカム厚 1cm 堆積汚泥厚 3cm	①2室流出水透視度 36度 スカム厚 0cm 堆積汚泥厚 18cm	2次処理槽内水 槽内水透視度 49度 生物膜生成している	

5. 作業及び調整内容

清掃 8/7	2次処理槽内水は仕切板保護の為、バキューム車で2/3引抜き1次処理1室張り水に使用 1/3は搬出し水張り後、片ぱっ気に調整し攪拌水流を弱める
保守 10/16	1次処理流出水透視度が前年10月保守点検時より良い結果を踏まえ、逆洗10分実施後 2次処理槽内水を2L/分→15分間(30L)移送する

6. 清掃後の保守点検結果

① 前年1次処理流出水透視度22度→36度に向上(26年10月29日)
② 前年1次処理2室堆積汚泥厚0→18cmに増加し、汚泥の沈降性が良い
③ 前年1次処理流出水透視度11度→21度、放流水透視度12度→37度に改善(27年2月2日)